日本のオープンソースの現状 2025

過去1年間でオープンソースによる
ビジネス価値が向上した
と回答した企業は 69% で、
世界全体では 54% でした。
また、74% がオープンソースは将来
にとって価値があると考えています。

日本は基盤**インフラの導入**では
遅れをとっていますが
（クラウド技術は33%、世界平均は52%）、
AR/VRや製造技術などの
専門技術の導入では
リードしています。

貢献した組織は、
セキュリティ (78%)、
イノベーション (77%)、
スタッフの知識 (74%)、
ソフトウェアの品質 (73%)
が向上したと報告しています。

IP に関する懸念が、
より深い参加を妨げています。
52% が貢献に関して、
44% が採用に関して、
34% が ROI について
不確実であると回答しています。

89% が、重大なオープンソース
の問題に対してサポート プロ
バイダーから 12 時間以内の
応答時間を期待しており、
これは世界全体の 69% の
割合を上回っています。

45% が**長期サポートの保証**
を期待しており、
35% が本番環境のオープンソー
ス ソフトウェアに対する迅速な
セキュリティ パッチの適用
を期待しています。

業界の規制環境に対しては45%、
機密データ システムに対しては43%、
ミッションクリティカルなワークロードに
対しては40%の組織が
有料サポートが不可欠だと考えています。

AR/VR (39%)、**AI/ML**、
クラウド（それぞれ28%）は、
日本で最もトレンドとなっている
オープンソース テクノロジー
です。

コミュニティ活動レベルを
チェックしているのは
わずか26%で、
この実践の全世界での割合47%を
大幅に下回っています。

オープンソースに非常に積極的な
組織は、消極的な組織 (56%) よりも
競争上の優位性 (73%) を
獲得する可能性が高くなります。

77% が、オープンソースによって
組織の**職場環境が改善**される
と信じており、
68% が**人材獲得**のメリット
を挙げています。

経営幹部レベルでの
OSSの戦略的価値は
まだ十分には明確ではなく、
その価値を認識している
経営幹部 (70%) は他の従業員
(85%) よりも少ないです。

Copyright © 2025 The Linux Foundation | December 2025. This report is licensed under the Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International Public License